

【報告事項 1.】 令和 5 年度事業報告の件

2020 年に発生し 3 年間にわたりパンデミックを引き起こした新型コロナウイルスがようやく収束の兆しを見せ、2023 年 5 月 8 日に感染症法の 5 類に移行したことにより、社会活動の復調が一気に進んだ。2023 年 7 月、本会へ小池百合子都知事より新型コロナウイルス感染症対策に対する感謝状が贈呈された。船の科学館宿泊療養型施設ペット診療サポート、新型コロナ感染症ペット一時預かり等に協力いただいた本会会員への感謝の意であった。また、本会ホームページにおいて、特別バナーを設置し、会員がアクセスしやすいよう対応していた「新型コロナウイルス情報」についても、10 月を以て取り下げ、他の感染症と同様に本会ホームページにある「人と動物の共通感染症ガイドンス」での解説を中心とした説明へと変更した。

令和 5 年度においては、A 会員会費を 25 年ぶりに値上げすることで財政基盤を安定させて公益活動を継続するとともに、コロナ禍においてオンライン形式が中心であった会議・各種行事等も積極的に対面形式に戻し、活動を行った。国際会議への参加も復活させ、FASAVA（インドムンバイ開催）や FAVA（マレーシアクチン開催）へも参加し、現担当役員への引継ぎも完了した。

これまでの福利厚生制度を維持しつつも、新たに B 会員を対象に加え、逝去・傷病・災害以外にも提供できる新福利厚生制度を開始した。新設の結婚・出産祝い、大学同窓会開催補助については、早々に申請があり、活用いただいている。一方、2020 年より開始した「新型コロナウイルス感染症への感染による見舞金」は、2023 年 5 月を以て終了した。総計 31 件の申請があり、総額 2,360,000 円の給付となった。

組織力強化対策の一環としての新たな取り組みである疼痛管理と麻薬の取り扱い知識向上と併せた入手経路の安定化に向け、会員向けのセミナー開催や業界団体との交渉等を行った。

人と動物の健康と環境の保全を目的としたワンヘルスは、本会が取り組む公衆衛生対策事業や、動物福祉に係る事業を円滑に進める上で、重要な考え方であり、本会活動のすべてを包括している。先行している福岡県ワンヘルス推進基本条例を参考に、東京都においてもワンヘルス条例が制定されるよう、積極的な活動を行った。具体的には 2023 年 8 月、小池百合子都知事に対し東京版ワンヘルス条例制定について最重要事項として要望した。併せて東京都医師会・行政等、関係機関に積極的な働きかけを行い、特に東京都医師会とは、ワンヘルス条例制定の為に共に活動することを確認した。また、ワンヘルス条例へのアドバイザーボードとしての獣医系大学の教授、専門有識者に依頼、協力を仰いだ。また、日本獣医師会会長である藏内勇夫氏が世界獣医師会の次期会長（2026-2028 年）に就任することとなり、2026 年には東京にて世界獣医師大会が開催されることが決定した。世界獣医師大会の開催地の獣医師会である東京都獣医師会として、新型コロナウイルス感染症を経験した今こそ、世界中の獣医師が連携して、地球が抱える様々な問題に取り組んでいかなければならないというワンヘルスの構想を都民に広く世界に訴えていく必要性が更に増した。

継続する公益目的事業としては、獣医療に関する調査研究、小動物獣医療の適正化、人と動物の共通感染症の発生予防・まん延防止、学校動物の適正飼育を通じて児童の健全育成を支援し動物愛護精神を啓発、動物の適正飼養に関する知識の普及啓発、家畜衛生対策による食の安全の確保、動物のいのち救済基金等を活用した、人と動物のより良い共生社会の構築による動物福祉及び公衆衛生の向上、介助動物の適正飼育支援及びその普及啓発、災害時の動物飼育者支援対策、小笠原諸島や御蔵島等の希少種や繁殖地の保護保全、傷病野生鳥獣の保護治療及び調査、並びに生命倫理の高揚を図る事業を行った。

中でも、補助犬診療券の原資でもある「ひかりの箱募金」については、現在の募金方法（小銭手数料が高額の為、送金に課題が生じている）と利用者への提供方法を検討することから、コロナ禍で回収がかなわなかった募金も含め、各支部に希望回収方法を聞き、振込み又は支部に直接伺い、募金回収を行った。

2023 年は、本会設立 75 周年であり、その記念として 75 周年ロゴを作成し、75 周年ロゴ入り名刺の作成、75 周年ロゴを活用した各種広報物での PR、そして、読み応えのある記念誌（社史 Web 版）を完成させ、一般公開を行った。また初の試みとして、オンラインでの合同就職説明会を開催し、会員病院にも参加いただき、人材確保の一助となるよう尽力した。また、広報活動として、本会ホームページをよりわかりやすく、必要な情報がすぐに入手できることを目的としたホームページリニューアルの検討を開始した。既にグランドデザイン案は決定し、2024 年に会員に公開予定である。

賛助会員（97 社：令和 5 年度末時点）と、動物医療業界の発展について考える会議（賛助会員ミーティング）を 11 月と 3 月に開催、ディスカッション中心の進行により、4 つのテーマ（①飼育頭数の減少 ②獣医療の透明性 ③働きやすい獣医療環境 ④ペットの価値向上）について、分析と改善策の立案を行い、広く共有した。

2022 年 4 月から日本が受け入れているウクライナ避難民の同行動物への獣医療支援については、2024 年 3 月末までに 4 件対応し、内 2 件は継続支援中である。そして、2024 年 1 月 1 日発生した能登半島地震に対し、日本獣医師会からの協力要請による支援金を本会会員に募り、併せて現地対策本部へ事務局から人員派遣も行い、積極的な能登半島地震への支援活動を行った。

事務局においては、2023 年 4 月に新入社員を迎え事務局体制の安定化を図った。また、会員からの会費納入の際、クレジット決済と同時に会員データベースに反映される新システムを導入し、正確性と効率化が上昇した。



75年の感謝を胸に、
未来への一歩

I 会 務 報 告

1. 役職員の人事

(1) 東京都庁関係：

高橋恒彦 副会長：東京都動物愛護管理審議会委員（2024年6月～2026年5月）
東京都外来鳥獣（アライグマ・ハクビシン）防除対策検討委員会委員
（2019年7月～2025年3月）
高藤典靖 理事：東京都動物由来感染症検討会委員（2023年2月～2027年5月）
鈴木 博 理事：東京都野生イノシシCSF対策協議会委員（2019年1月～）
平井潤子 事務局長：東京都動物愛護推進協議会委員（2021年3月～2027年2月）
東京都防災会議専門委員（2023年10月～2024年3月）

(2) 日本獣医師会関係：

村中志朗 前会長：顧問（2023年6月～）
上野弘道 会長：東京地区代表理事（2021年6月～2025年6月）
小動物臨床部会 小動物臨床委員会（2021年6月～2025年6月）
特別委員会 ワンヘルス推進検討委員会（2023年6月～2025年5月）
高橋恒彦 副会長：動物福祉・愛護委員会委員（2021年6月～2025年6月）
中川清志 副会長：職域総合部会 総務委員会委員（2021年6月～2025年6月）
動物福祉・愛護委員会委員 学校動物飼育支援対策検討委員会委員
鈴木 博 理事：産業動物臨床部会 産業動物臨床・家畜共済委員会委員（2021年6月～2025年6月）
藤田道郎：獣医学術部会 学術・教育・研究委員会委員（2023年6月～2025年6月）
平井潤子 事務局長：危機管理室統括補佐（2023年12月～）
令和6年能登半島地震緊急対策本部アドバイザー（2024年1月～）

(3) 株式会社損害保険ジャパン（日獣保険事業）関係：

小松泰史 監事：獣医師賠償責任保険中央審議会委員（2021年6月～2025年6月）

(4) 関東・東京地区合同獣医師連合会関係：

上野弘道 会長：東京地区代表理事（2022年6月～2025年3月）
中川清志 副会長：監事（2021年7月～2025年3月）

(5) その他：

上野弘道 会長：おがさわら人とペットと野生動物が共存する島づくり協議会委員
（2022年6月～）
高橋恒彦 副会長：小笠原村愛玩動物の適正な飼養及び管理に関する審議会委員
（2021年11月～2024年10月）
高橋恒彦 副会長：おがさわら人とペットと野生動物が共存する島づくり協議会幹事

(2018 年 5 月～)

入交眞巳 理事：おがさわら人とペットと野生動物が共存する島づくり協議会幹事

(2020 年 4 月～)

東京都自然環境保全審議会委員 (2023 年 7 月～)

鳥獣部会委員 (2023 年 7 月～)

鈴木 博 理事：東京都農業共済組合損害評価会委員(2022 年 4 月～2025 年 3 月)

東京都獣医師会：社会を明るくする運動 東京都推進委員会 構成団体

(6) 事務局人事

事務局員 1 名が 2023 年 4 月に入局、他事務局員 1 名が 2024 年 1 月より産休・育休を取得中。

2. 本会の活動状況

(1) 会議、委員会の開催状況：

会務を円滑に運営するため、定款に定める会議並びに本年度に設置した委員会等の開催状況は次のとおりである。定時総会、定例理事会、委員会等を対面形式、オンライン併用のハイブリッド形式、オンライン形式、書面形式にて開催した。

ア. 定時総会：第 12 回 6/11

イ. 定例理事会：第 1 回 5/9、第 2 回 8/1、第 3 回 10/16、第 4 回 12/22、第 5 回 3/22

ウ. 臨時理事会：開催していない

エ. 監査会：第 1 回 令和 4 年度全期決算監査 5/2、第 2 回 中間監査会 12/8

オ. 会務運営会議：第 1 回 7/11、第 2 回 9/22、第 3 回 11/29、第 4 回 3/12

カ. 地域職域合同支部長会：6/1

キ. 支部会計説明会：個別の問い合わせに対応

ク. 倫理委員会：開催していない

ケ. 役員候補者選任委員会：12/8

コ. 産業動物委員会：3/15

サ. 獣医公衆衛生委員会：第 1 回 10/2、第 2 回 3/8

シ. 都補助 人と動物の共通感染症対策検討委員会：第 1 回 10/2、第 2 回 3/8

ス. 都委託 獣医療広告適正化検討委員会：11/28

セ. 学校飼育動物対策委員会：第 1 回 6/15、第 2 回 12/4、第 3 回 1/28、第 2 回 3/25

ソ. 危機管理・防災関係：9/3

タ. 広報委員会：第 1 回 4/26、第 2 回 8/2、第 3 回 10/31、第 4 回 2/6

チ. 東京地区三学会対策委員会：第 1 回 5/16

ツ. 表彰審査委員会：第 1 回 4/28

テ. 狂犬病対策委員会：第 1 回 11/15、第 2 回 1/29、第 3 回 3/10

ト. 関東・東京合同地区獣医師会理事会・幹事会：第 1 回 4/9、第 2 回 7/9、第 3 回 2/25

ナ. 東京 VMAT 検討委員会：9/8

(2) その他関係機関、他団体などの会議、委員会等の活動状況：

ア. 公益認定関係：

令和 5 年度事業報告及び決算報告の電子申請 (6/30)

令和 6 年度事業計画及び予算の電子申請 (3/31)

イ. 都庁関係:

都知事令和 5 年度予算要望 (11/14)

ウ. 日獣関係:

第 80 回 通常総会 明治記念館 (6/27)

令和 5 年度全国獣医師会事務・事業推進会議 明治記念館 (8/21)

中央行事屋内行事 国際フォーラム (9/23)

全国獣医師会会長会議 上野精養軒 (11/22)

中央行事屋外行事・2023 動物感謝デー in JAPAN 恩賜上野公園不忍池 (11/23)

獣医学術学会年次大会 神戸国際会議場 (12/1~3)

ワンヘルスセミナー、ワンヘルス推進関係者懇親会 明治記念館 (2/14)

エ. 関東連関係:

第 1 回関東・東京合同地区獣医師会理事会・幹事会 大宮ソニックシティ (4/9)

第 2 回関東・東京合同地区獣医師会理事会・幹事会 大宮ソニックシティ (7/9)

第 3 回関東・東京合同地区獣医師会理事会・監査会 ブリランテ武蔵野 (2/25)

令和 5 年度関東・東京合同地区獣医師大会 三学会 大宮ソニックシティ (9/3)

令和 5 年度獣医事功績者表彰候補者は以下の通り

<A 会員 6 名>

金子 賢一(新宿支部)、石井 貴(文京支部)、下澤 章夫(多摩西支部)、
赤塚 正明(江戸川支部)、山本 博史(八王子支部)、菅又 恒子(北多摩支部)

<B 会員 6 名>

工藤 裕一(橄欖支部)、小泉 清明(東京都公衆衛生支部)、安田 英巳(目黒支部)
牧江 弘孝(動物薬事支部)、左向 敏紀(日獣大支部)、辻本 元(橄欖支部)

東京都獣医師会からの演題申込は以下の通り

【獣医公衆衛生学会】

なし

【産業動物獣医学会】

① 中里 優美/味戸 忠春(日獣大支部)

乳牛における子宮内の超音波画像所見と子宮内膜スミアおよび子宮灌流液中の多形核白血球の割合との関連性

【小動物獣医学会】

① 寺西 里紗/木村 勇介(東京動物医療センター)

拡張型心筋症を疑った大型犬の 1 例

② 佐藤 玲奈/中村 泰治(小滝橋動物病院グループ)

急性僧帽弁腱索断裂後に洞不全症候群を合併した犬の 1 例

③ 矢澤 大輔/原 康(日本獣医生命科学大学)

液体窒素処置自家骨を使用して患肢温存療法を実施した前肢骨格の骨肉腫罹患犬の 3 症例

④ 佐藤 妃恵/中村 泰治(小滝橋動物病院グループ)

小滝橋動物病院グループにおける猫の動脈血栓塞栓症 26 例の比較検討ならびに外科治療の有用性について

⑤ 藤井 聖久（くすの木動物病院 世田谷どうぶつ整形外科センター）

橈尺骨骨折整復後のインプラント誘発性骨粗鬆症による再骨折症例にダブルプレート法を実施したトイ犬種の一例報告

⑥ 森 淳和（ONE for Animals 東京）

トイ犬種の踵骨体部骨折に対する治療法の検討

発表演題の内、矢澤 大輔/原 康（日本獣医生命科学大学）の「液体窒素処置自家骨を使用して患肢温存療法を実施した前肢骨格の骨肉腫罹患犬の3症例」が、小動物学会Bにおいて地区学会長賞を受賞し、獣医学術学会年次大会 神戸国際会議場（12/1～3）にて発表を行った。

オ. 政令指定都市及び東京都獣医師会連絡協議会：広島（10/22）

カ. 他府県獣医師会：川崎市獣医師会主催 神奈川県下獣医師会及び東京都獣医師会合同会議（11/26・27）

高橋三男叙勲祝賀会 大宮パレスホテル（2/18）

キ. 家畜衛生防疫対策事業関係：

産業動物委員会 瑞穂町（3/15）

ク. その他：

優等卒業生の表彰 日本獣医生命科学大学 令和5年度学位授与式（3/7）

東京農工大学 謝恩会（3/26）

（3）国際交流関係：

FASAVA（アジア小動物獣医師会大会）インドムンバイ（10/27～29）

FAVA（アジア獣医師会連合大会）マレーシアクチン（11/3～5）

3. 催事、学術集会等の実施状況

ア. 学会、講習会等事業：

・学校飼育動物獣医師養成講座 計3回実施

・明治安田生命提供 “明日に向かって” カンファレンス 学士会館（8/9）

「猫のFIPに関する最新情報提供」：石田卓夫先生（中央支部）

「麻薬購入に関する取り組みと課題」：横関由則氏（株式会社アスコ）

「飼育動物診療施設における麻薬等の取扱い上の留意点について」：小菅孝恵（東京都保健医療局）

・SOMPO ひまわり生命 会員向けマネーセミナー ウェブ配信（10/5）

「NISA 大改正！！これからの資産形成とリスク対策」

・農工大・東京都獣医師会共同主催 第1回フロンティアワンヘルスネクサスセミナー Zoom形式（12/12）

「獣医療従事者が知っておくべき SFTS」

1. SFTS の東京での X デーに備える！ 国立感染症研究所 前田健 先生

2. SFTSV の院内感染を経験して やの動物病院 奥山寛子 先生

・令和5年度獣医公衆衛生学術振興事業講習会 ホテルルポール麹町（2/18）

第1部 SFTS ウイルスの院内感染を経験して やの動物病院 奥山寛子 先生

第2部 人と動物を守る感染症対策 PPE（個人用保護具）を中心に

国立感染症研究所 堀田明豊 先生

- ・狂犬病についての講習会 新宿 (3/10)

第1部：午後2時30分～3時 狂犬病担当者会議（支部長・狂犬病担当者参加）

第2部：午後3時10分～5時30分 狂犬病についての講習会

1) 狂犬病の発症事例紹介 佐藤克先生

2) 犬の咬傷事故対応並びに狂犬病発症を疑った場合の対応マニュアルの
改訂点と集合注射の際に準備すべきこと 中川清志先生

3) 予防接種によるアナフィラキシーの診断と対応について 東京農工大学
大森啓太郎先生

イ. 支部学術講習会の計画等：

品川・大田・中央支部 三支部合同学術講習会

「up-to-date 犬のリンパ腫～化学療法という【武器】を使いこなす～」(10/29)

町田支部学術講習会

「僧帽弁閉鎖不全の診断と治療」(2/4)

ウ. 催事：

第1回合同就職説明会 オンライン形式 (3/23・3/24)

- ・18病院参加（1病院10分程度のプレゼンテーション。終了後学生へアンケートを実施、
連絡が欲しい動物病院を聞き、同意を得た後に学生の連絡先を動物病院へ紹介）
- ・求人募集掲載（ホームページの特設ページ）13病院

4. 本会が後援等を行ったイベント・キャンペーン・講演会

【後援】

- ・野生動物救護獣医師協会「ヒナを拾わないで」キャンペーン（2024年4月～7月）
- ・JBVP 第25回日本臨床獣医学フォーラム 年次大会（9/23・9/24）
- ・JAHA 獣医師継続教育セミナー
第173回 JAHA 国際セミナー「脳神経外科のスペシャリストに学ぶ神経疾患の診断と治療」
Dr. R. Timothy Bentley (Purdue University) 新宿（8/18・8/19・8/20）
第174回 JAHA 国際セミナー「世界基準の呼吸器外科～上気道を見つめ直す」
Dr. Bryden Stanley (Animal Surgical Center of Michigan) 新宿（11/14・11/15・11/16）
- ・全国学校飼育動物研究会 第25回全国学校飼育動物研究大会 両国（8/27）
- ・能登半島地震復興を応援する獣医師の会 オンライン形式「令和6年度能登半島地震チャ
リティーレクチャー」（1月下旬～6月）
- ・一般社団法人日本身体障害者補助犬学会 第15回学術大会 八王子（10/28・10/29）
- ・一般社団法人日本獣医麻酔外科学会 第108回学術集会 大宮（2024年6/21・6/23）

【協賛】

- ・第13回インターペット東京・大阪2024 東京ビックサイト（2024年4/4～4/7）

【共催】

明治安田生命保険との包括連携協定「人と動物の共生を通じた健康増進・地域創生」による
イベントを共催

- ・味の素スタジアムで開催されたFC東京の試合にブース出展し、本会が取り組む小笠原自然

環境保護事業の啓発活動を行った。また、FC 東京の試合においては、本会が仲介し小池都知事からの動物愛護に関するショートメッセージをサッカースタジアムの大型スクリーンで放映した（10/1）

- ・東獣“明日に向かって”カンファレンスの共同開催 講習会 25 名参加、懇親会 18 名参加
- ・高齢動物表彰の表彰状用フレーム提供と対象の犬猫の写真を用いたアクリルブロック進呈
表彰申請数：110 病院 1942 件 アクリルブロック申請数：132 件
- ・本会会員への特典提供 ルミネ the よしもと、落語講演会チケット、サッカーチケット贈呈

5. 表彰など

（1）公益社団法人東京都獣医師会会長表彰状について 第 12 回総会にて表彰（6/11）

＜A 会員＞

橋本 栄光（中央支部）、豊田 佐代子（武蔵野三鷹支部）、山本 滋子（足立支部）、
八巻 敦美（多摩西支部）、飼沼 亨（多摩東支部）、上野 和裕（練馬支部）、
笹木 稔也（世田谷支部）、長田 伸一（大田支部）、大窪 武彦（南多摩支部）、
八木 裕三（武蔵野三鷹支部）、金地 嘉博（北支部）、藤村 環（豊島支部）、
阿部 雅彦（練馬支部）、高木 七重（杉並支部）、村中 志朗（中央支部）

＜B 会員＞

工藤 裕一（橄欖支部）、三宅 肇（動物薬事支部）、清水 一政（日本獣医生命科学大学支部）、仲野 博志（橄欖支部）、佐藤 孝（共済支部）、花田 道子（橄欖支部）、
田中 吉春（生物医学支部）、古賀 南加子（橄欖支部）、松田 浩珍（東京農工大学支部）、下田 耕治（生物医学支部）、石川 明美（動物薬事支部）、横尾 彰（橄欖支部）、
矢田 圭一（動物薬事支部）

（2）公益社団法人東京都獣医師会会長感謝状 第 12 回総会にて表彰（6/11）

・支部長（10 年以上の支部長歴）（3 名）

佐藤 至	中野支部	H23～R4	12 年間
藤井 武	動薬事支部	H23～R4	12 年間
尾作 紀夫	共済支部	H17～R4	18 年間

・コロナ対策として一時預かり協力病院（13 名）

永井 秀和（北支部）、齊藤 朋子（中野支部）、羽太 真由美（町田支部）、
堀 泰智（豊島支部）、水野 美也子（城北支部）、北村 重宗（品川支部）、
菅又 恒子（北多摩支部）、渡辺 逸子（江戸川支部）、丸山 吉博（江東支部）、
西野 朗（江東支部）、野坂 昭文（南多摩支部）、浦崎 俊博（南多摩支部）、
御厨 純（南多摩支部）

- ・コロナ対策として船の科学館支援協力（健康相談・飼育サポート）（品川支部 3 病院）
池田 弘樹、北村 重宗、宮崎 務

（3）小笠原保護猫活動支援への特別感謝状 富士フイルム VET システムズ株式会社（6/22）

6. その他

（1）賛助会員ミーティング

2023年11月13日（金）午後2時より、大井町きゅりあんにて、令和5年度第1回賛助会員ミーティングが開催された。賛助会員37社64名が出席した。まず、賛助会員と本会の取組実績について報告された。各リーダーからの分科会開催報告（情報共有）を受けた後、あるべき姿についての明文化と今後の課題について話し合われた。その後、場所を移して、本会勝島支部である大井競馬場「ダイヤモンドターン」にて情報交換会が開催され、49名の賛助会員が参加し、午後7時を以て終了した。

2024年3月12日（火）午後2時より、ホテルルポール麴町にて第2回賛助会員ミーティングが開催された。賛助会員35社45名が出席した。一般社団法人 人とペットの幸せ創造協会の越村氏の「ペット関連産業の現状と将来の展望」についての講演後、4つの課題（1. 飼育頭数の減少、2. 獣医療の透明性、3. 働きやすい獣医療環境、4. 社会におけるペットの価値向上）について、グループディスカッションがなされた。それからアクションの選定（第1弾）と各グループからの発表があった。その後、同ホテルルポール麴町の別会場にて情報交換会が開催され、41名の賛助会員が出席し、午後7時を以て終了した。

（2）規程類の改定

1）旅費規程の改定（第4回理事会）

（3）その他

・ウクライナ避難者の同行動物への診療対応

農林水産省、日本獣医師会の要請により、2022年6月から本会会員の協力による獣医療支援を実施。文京支部（犬1頭）、多摩西支部（猫1頭・犬1頭）、北支部（犬2頭）の3支部で4件に対応し、2024年4月時点で2件継続支援中である。

支援に係る費用は日本獣医師会が全国の獣医師会から集めた支援金から支出している。

・マイクロチップについて

施行細則の一部改正が2023年6月1日行われ、獣医師による負傷動物の飼育者検索が可能となった。負傷動物かどうかの判断は診察した獣医師の判断による。

また、2024年4月1日からマイクロチップの登録・変更手数料が改定となった。

【変更前】2024年3月31日まで

オンライン申請：登録・変更手数料 300円

：登録証明書再登録手数料 200円

用紙による申請：登録・変更手数料 1,000円

：登録証明書再登録手数料 700円

【変更後】2024年4月1日から

オンライン申請：登録・変更手数料 400円

：登録証明書再登録手数料 300円

用紙による申請：登録・変更手数料 1,400円

：登録証明書再登録手数料 1,300円

・能登半島地震動物救護活動等への支援について

本会会員からの支援金総額1,807,821円（32件）と本会からの支援金292,179円を合わせた合計2,100,000円を支援金として送金した（4月1日）。また日本獣医師会危機管理

室からの要請を受け、災害発生後の１月７日より、本会から現地対策本部へ定期的な人的支援を行い、現地対策本部の立上げ業務をサポートした他、現地対策本部の事務運営支援や関係機関との連絡調整、情報提供などの運営サポートを継続中である。

- ・「動物看護師統一認定機構」より、愛玩動物看護師の生涯教育講座への寄付の依頼があり、30,000 円の寄付を行った。

7. 本会組織の会員状況

令和5年度末会員数は、A会員名594名、B会員447名、計1,041名である。

年度内の入会は28名、退会36名（逝去3名含）、長寿会員59名のうち、会費免除高齢会員46名であった。（会員の内訳は表参照）

地域	A会員			B会員			計		
支部	5年度 会員数	4年度 会員数	増減	5年度 会員数	4年度 会員数	増減	5年度 会員数	4年度 会員数	増減
中 央	28	28	0	11	11	0	39	39	0
文 京	14	14	0	2	2	0	16	16	0
新 宿	17	17	0	9	3	6	26	20	6
中 野	14	14	0	1	1	0	15	15	0
杉 並	39	38	1	12	13	△ 1	51	51	0
世田谷	56	57	△ 1	41	39	2	97	96	1
渋谷	8	8	0	1	1	0	9	9	0
目 黒	21	20	1	9	8	1	30	28	2
大 田	39	40	△ 1	13	12	1	52	52	0
品 川	19	18	1	6	4	2	25	22	3
勝 島	6	7	△ 1	2	3	△ 1	8	10	△ 2
江 東	19	21	△ 2	0	0	0	19	21	△ 2
墨 田	17	17	0	2	2	0	19	19	0
城 北	21	20	1	0	0	0	21	20	1
葛 飾	20	20	0	1	1	0	21	21	0
江戸川	21	21	0	7	7	0	28	28	0
足 立	16	16	0	1	1	0	17	17	0
北	8	11	△ 3	0	0	0	8	11	△ 3
豊 島	14	14	0	1	1	0	15	15	0
板 橋	11	12	△ 1	2	2	0	13	14	△ 1
練 馬	32	33	△ 1	7	6	1	39	39	0
武蔵野三鷹	10	10	0	2	2	0	12	12	0
北多摩	31	32	△ 1	3	3	0	34	35	△ 1
多摩東	22	23	△ 1	1	1	0	23	24	△ 1
南多摩	14	13	1	3	3	0	17	16	1
八王子	19	19	0	0	0	0	19	19	0
町 田	19	20	△ 1	1	1	0	20	21	△ 1
多摩西	39	40	△ 1	5	4	1	44	44	0
小 計	594	603	△ 9	143	131	12	737	734	3

職域	B会員		
支部	5年度 会員数	4年度 会員数	増減
農水省	2	2	0
動薬検	0	0	0
都産労	6	7	△ 1
都公衆衛生	23	23	0
東 大	13	15	△ 2
農工大	15	13	2
日獣大	30	30	0
生物医学	17	18	△ 1
日生研	5	5	0
松 研	2	2	0
中央競馬	2	3	△ 1
共 済	8	10	△ 2
動物薬事	27	29	△ 2
かんらん	154	158	△ 4
小 計	304	315	△ 11
B会員計	447	446	1

令和5年度 会員数	A会員	B会員	合計
	594	447	1041

東京都獣医師会総会員数			
	R5年度	R4年度	増減
総計	1041	1049	△ 8

Ⅱ 事業実施報告

I. 公益目的事業

1. 都民公開シンポジウム開催事業

令和5年度は実施していない。

2. 狂犬病予防対策推進事業

狂犬病予防法に基づき狂犬病予防注射事業を実施した。令和5年度集合注射における接種頭数は60,007頭の実績となった。令和4年度比 105.8%、3,295頭増加となった。COVID-19蔓延により、昨年度に引き続き集合注射事業を中止後復活させていない基礎自治体が7自治体ほどあり、令和4年度と比較すると接種頭数は若干の回復にとどまった。このような状況下ではあるが、万が一の発生時には早期探知が行えるよう狂犬病に関する知識の普及・啓発事業を推進し、併せて発生予防を図り、もって公衆衛生の向上及び公共の福祉増進に努めるために以下の事業を行った。

2ーア. 都民に対する狂犬病に関しての情報提供と周知；

平成26年度に本会が制作した動画「東京を守ろう」を引き続きインターネット上で公開し、狂犬病予防注射の必要性について啓発活動を継続実施した。

2ーイ. 犬の飼育者に対する狂犬病予防の啓発及び適正な飼育指導；

勝島支部を除く27地域支部の動物診療施設において犬の飼育者に対し狂犬病予防を啓発するとともに、咬傷事故防止のための適正飼育を指導し、狂犬病予防法の遵守とその重要性を周知するなど、年間を通じ地域支部による地元に着した啓発活動に取り組んだ。また、狂犬病支部担当者会議において、各支部における課題を共有し、今後の啓発活動における情報交換の場を設けた。

2ーウ. 獣医師に対する知識及び診断技術の周知並びに情報提供；

狂犬病支部担当者会議・講習会が、2024年3月10日（日）午後2時30分より、新宿カンファレンスセンターにて開催された。各支部長又は狂犬病担当者（43名）と非会員5名が参加した。担当者会議では集合注射事業に係わる様々な課題について議論された。

狂犬病についての講習会では、万が一の発生時に、獣医師が早期探知できるようになることを企図し、佐藤克先生より狂犬病の発症事例紹介、中川清志副会長より法8条に係る犬の咬傷事故時の観察の意義、注意点および対応並びに狂犬病発症を疑った場合の対応マニュアルの改訂点と集合注射の際に準備すべき事について、そして東京農工大学の大森啓太郎先生には適切な予防接種事業推進を行うため、アナフィラキシーの診断と対応について講演いただいた。大森先生の講義でアナフィラキシー対応の最新知見を得られたため、令和6年度に本会の「狂犬病予防注射事故対策ガイドライン」を大森先生に監修していただき、一部修正することとした。

2-エ. 狂犬病予防注射接種率と登録率の向上促進；

令和5年度においても集合注射を中止する自治体があった。27地域支部のうち狂犬病予防定期集合注射を実施したのは25支部であり、中止した自治体としては7自治体となった。予防接種実施時に、飼育者に対する啓発を行い、そして地方自治法施行令第158条の規定に基づき行政事務を受託し動物病院での登録受けおよび注射済票交付などを通じ、飼い犬の登録率および狂犬病予防注射の接種率を向上せるよう努めた。

本部では、獣医師賠償責任保険「狂犬病予防注射事業賠償契約」の傷害見舞費用保険を案内し、A会員の病院に勤務しているB会員についても加入が可能であることを改めて案内した。

また、狂犬病予防注射離島対策事業として、島嶼に対してはヘリコプター等を使用し、会員獣医師を現地に派遣して狂犬病予防注射活動を実施した。

2-オ. 都民が飼育する犬に対する狂犬病抗体価調査；

令和5年度は実施していない。

3. 災害時の動物救護支援に関する事業

本会内には災害、人と動物の共通感染症発生時の初動活動に即時対応可能な危機管理室が設置されている。各セクションでは非常時に備えて継続して次の対策事業を実施した。

3-ア. 危機管理・災害対策事業；

東京都との協定に基づき、災害時における被災動物の救護活動（保護、預かり、応急処置及び情報提供）を効果的かつ速やかに実施するために、都が開催する防災担当者会議等にオンラインや書面にて参加した他、9月3日（日）、東京都・東村山市合同総合防災訓練に、北多摩支部東村山獣医師会会員と共に参加した。平時においては、有事を想定して、安否確認システムにより9月1日と3月11日に会員の安否確認訓練を実施した。安否確認メール未達対策のため毎月1日にテスト送信を実施した。

東京都獣医師会オリジナルの防災パンフレットを作成し、イベント集客用のノベルティグッズ（安否確認ホイッスル）と共に希望する支部に提供した。

9月8日（金）、東京 VMAT 運営委員会がZoomにて開催され、本部からの総合防災訓練や活動保険に関する報告が行われた後、今後の活動に関し意見交換が行われた。

3-イ. 危機管理・感染症対策事業；

動物を介した新興感染症や人と動物の共通感染症の発生防止とまん延、拡大防止に役立つ対策情報や発生情報等を都度発信し、公衆衛生対策の向上および公共の健康福祉増進に寄与した。COVID-19については、5月8日に感染症法5類に移行したことにより、今までホームページで告知していた特別リンクを取り下げ、他の感染症と同様に解説することとした。この他、感染症対策セクションより以下の情報について、支部長連絡および一斉メールでの周知並びに本会HPでの公開を行い、正しい情報の周知に努めた。

- ・「コリネバクテリウム・ウルセランスの検査機関及び国立感染症研究所の担当者変更について（通知）」（5/19）

- ・「千代田区での高病原性鳥インフルエンザの発生に伴う傷病鳥獣保護事業の一時休止と学校等から相談があった場合の対応について」 (12/4)
- ・「都内会員病院からの犬ブルセラ症発生報告に伴う注意喚起」 (2/20)
- ・「オウム病についてのお知らせ（欧州での流行）」 (3/11)

4. 獣医公衆衛生対策推進事業

4 - ア. 動物由来感染症モニタリング事業

東京都の委託を受け、人と動物の共通感染症の定点把握を継続実施した。

①皮膚糸状菌症 ②疥癬 ③回虫症 ④コリネバクテリウム感染症 ⑤犬ブルセラ症（犬のみ）⑥トキソプラズマ症（猫のみ）については、都内全域を対象に地理的な偏差が出ないように設定した会員病院20施設において来院する動物から検査サンプルを採取した。

結果として令和5年度においては、20病院の診療頭数（犬64,597頭、猫37,691頭）の内、①皮膚糸状菌症（犬11頭、猫35頭）、②疥癬（犬2頭、猫3頭）、③回虫症（犬4頭、猫15頭）、④コリネバクテリウム感染症（犬1頭、猫2頭）、⑤犬ブルセラ症（犬のみ・0頭）、⑥トキソプラズマ症（猫のみ・1頭）の合計 犬18頭、猫56頭の陽性検体が確認された。

また、腸管出血性大腸菌（EHEC）、薬剤耐性大腸菌、SFTSウイルスについては、協力病院の内、6病院によりサンプリングを行った。SFTSウイルスについては、月に1検体3か月（9月～11月）6病院18検体すべて陰性であった。検査に当たっては富士フイルムVETシステムズ株式会社と東京都健康安全研究センターの協力を得た。

4 - イ. 人と動物の共通感染症及び食の安全対策事業

「獣医公衆衛生学術振興事業（東京都補助）」により以下の2事業を実施したほか、獣医公衆衛生に係る関係官庁等からの公示、通知等の情報を本会ウェブサイト及び東獣ジャーナルを通じて会員等に迅速に広報を行った。

① 学術講習会の開催

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）等の共通感染症への獣医療関係者の適切な対応と個人保護具（PPE）の重要性を啓発するため、以下のとおり講習会の開催及びオンデマンド配信を行い、改めて獣医療関係者に注意喚起を図った。

講習会開催日：2024年2月18日（日）

開催場所：ホテルルポール麹町 3階ガーネット

オンデマンド配信：2024年3月1日（金）から3月31日（日）まで

講習会内容：「SFTS ウイルスの院内感染を経験して～PPEの重要性～」

講師：やの動物病院 奥山 寛子先生

「人と動物を守る感染対策 PPE（個人用保護具）を中心に」

講師：国立感染症研究所 堀田 明豊先生

② 「人と動物の共通感染症ガイドライン Web 版」の増補改訂

本会 HP に掲載中の「人と動物の共通感染症ガイドライン Web 版」を増補改訂し、新たに5種類の感染症（炭疽、破傷風、新型コロナウイルス感染症、中東呼吸器症候群（MERS）、エムボックス）の追加掲載及び8感染症の掲載内容の更新等を行い公開し、獣医療関係者及び広く都民に人と動物の共通感染症の知識の普及啓発を図った。

5. 学校動物飼育対策推進事業

COVID-19対策に留意しつつ、小学校学習指導要領に則り実施される教育施設での動物飼育を通して、児童への情操教育や科学教育、及び動物愛護精神の育成を支援した。

また人と動物の共通感染症に対する予防および啓発活動を通して当該事業が安全に実施されるよう努め、以下の事業を行った。

5ーア．学校に対する学校飼育動物関連知識の普及啓発及び適正な飼育指導；

学習指導要領解説に示された通り、児童が学校飼育動物に心を寄せ、愛着を持って接するとともに、生命あるものとして世話することができる飼育活動の実現をめざして、学校飼育動物の適正な飼育方法等の指導活動を、支部委託事業として都内全域において行った。

行政などから依頼のあった学校及び教育委員会に対して本会から講師を派遣した。

講師派遣により、感染症対策や学校飼育動物の適正な飼育方法の指導や児童や教員に対する講習会を開催することで学校飼育動物関連知識の普及啓発に努めた。

2023年12月1日～3日に開催された日本獣医師会獣医学術学会年次大会の中で行われた「意見交換会：学校動物飼育支援対策検討会委員会拡大会議」に参加した。

また、学校動物飼育の支援等に寄与するため、地域支部において学校飼育動物の施療や飼育指導を実施し、また学校動物飼育に関わる情報提供に努めた。

5ーイ．学校獣医師養成講座；

全国の担当者と意見交換を行い、知識などの向上のため日本獣医師会の動物福祉・愛護部会 個別委員会学校動物飼育支援対策検討委員会及び動物福祉・愛護部会 学校動物飼育支援対策検討委員会に参加した。

獣医師向け「学校飼育動物 獣医師養成講座」を会場又はオンライン参加形式で開催し、56名（本会会員23名、非会員31名、学生2名）が参加した。

【内 容】

開催日：第1回9月10日（日）、第2回11月5日（日）、第3回1月28日（日）

会 場：ビジョンセンター西新宿

会 費：第1部無料、第2部有料（会員2,000円／非会員3,000円／学生 無料）

第1回 2023年9月10日（日）14：30～16：30 後日動画配信（VetScope）

第1部：「学校飼育動物活動のあり方」アップデート

講 師：中川清志（東京都獣医師会副会長）

第2部：「モルモットについて」

講 師：田向健一（東京都獣医師会 大田支部 田園調布動物病院）

事前申込者数32名、当日参加者11名、見逃し配信視聴者数15名

第2回 2023年11月5日（日）14：30～16：30 後日動画配信（VetScope）

第1部：「小学校動物飼育推進事業の根拠、目的及び期待する効果」

講 師：上野和広（東京都教育庁指導部主任指導主事）

第2部：「チャボについて」

講 師：小嶋篤史（東京都獣医師会世田谷支部 鳥と小動物の病院リトルバード）
事前申込者数47名、当日参加者15名、見逃し配信視聴者数23名

第3回 2024年1月28日（日）14：30～16：30 後日動画配信（VetScope）

情報交換会

アドバイザー

田向健一（東京都獣医師会大田支部 田園調布動物病院）

小嶋篤史（東京都獣医師会世田谷支部 鳥と小動物の病院リトルバード）

事前申込者数47名、当日参加者9名、見逃し配信視聴者数10名

5 ウ．動物飼育作文コンクール；

例年、支部事業として児童の心と身体の健全な育成のために、動物飼育作文コンクールを行い、その優秀作品を表彰してきた（品川支部）。コロナ禍の為、表彰式が行われていなかったが、令和5年度より復活し、上野会長より表彰を行った。

5 エ．小学校動物飼育推進校事業（都委託事業）；

東京都教育庁の委託を受け、該当する地域支部の会員の協力を得て、都内5つの推進校において、生徒と担当教師を対象とし、①衛生管理指導 ②体験活動事業 ③研修会事業 ④動物由来感染症発生時対応事業 ⑤埋葬事業を実施した。

また、事業の適正な推進と発展のため、課題の抽出や今後の対策の検討を行うとともに、活動報告会を開催し今後の継続的な取り組みのための礎とした。事業が継続されることにより、各学校ともに学習指導要領に則った飼育（1、2年生による継続飼育）実践方法の研究がなされるようになった。

5 オ．学校飼育動物埋葬に関わる事業；

児童の健康と安全を守るため、110校・137件の学校飼育動物の死亡に際して担当動物病院で検案実施後、一般社団法人東京都獣医師会霊園協会との間で締結した「学校飼育動物の埋葬に関わる協定」に基づき適切な埋葬をおこなった。

以上のことにより学校飼育動物の死亡に際し児童の心身の安全を確保し、学校及び児童が身をもって生命の尊さを感じる事ができるよう支援した。

6．動物愛護啓発事業

6 ア．催事における啓発事業；

日本獣医師会が主催する2024動物感謝デーinJAPAN “World Veterinary Day “は、11月23日（木）に上野恩賜公園不忍池付近にて開催された。本会は動物救護所と併せ、小笠原自然環境保護事業のPRと本会ワンヘルス委員会の企画により、ワンバサダー・ニャンバサダー募集告知を行った。ステージイベントにおいては、「ドイツでの獣医師の役割や獣医療界について」と題してドイツから来日した獣医師4名と上野会長とのトークセッションを実施した。

適正飼育支援の一環として15歳以上の犬猫を対象とした長寿犬・長寿猫表彰を行った。令和5年度は110病院、1,942件の申し込みがあり、賛助会員の明治安田生命から病院へ配布し

た。また明治安田生命の協賛により表彰された全犬猫を対象とした表彰状用額縁のプレゼント、更に追加プレゼント企画として希望者にはペットの写真・名前が入れられるアクリルブロックの配布を行った。アクリルブロックについては132件の申請があり、1月末までに贈呈された。

『動物のいのち救済基金』募金総額は13,687,649円（2024年3月1日現在）であり、『動物のいのち救済基金』の活動の一つ「災害対策事業」として作成したペット防災BOOKをインターネットにて継続して販売した。同じく『動物のいのち救済基金』を活用した活動のひとつである“高齢者の動物飼育支援事業”「飼い主とペット（犬猫）の年齢を足して80歳以上」においては、町田支部から申請があり「公益社団法人東京都獣医師会会員病院専用特別診療券（1,000円券）」を提供した。

6-イ. ネコの不妊去勢手術及び助成に関わる事業；

動物の適正飼養の推進を図るため、それぞれ支部地域において市区町村の助成を受けて、飼い猫や飼い主がいない猫の不妊去勢手術を実施した。

令和5年度の御蔵島からの猫の保護・譲渡実績は4頭であった。

7. 医療廃棄物等適正処理活動事業

獣医療に伴って排出される医療廃棄物の適正処置と安全な取り扱いについて、東京都医師会が主催する「医療廃棄物処理研修会」オンライン開催等の情報提供や知識の普及啓発を行った。また、不正処理により摘発された業者に関する情報を、逐次、本会ホームページや東獣ジャーナルに掲載して動物診療施設を管理する獣医師に対し、適切な情報の提供に努めた。

8. 身体障がい者支援活動事業

令和5年度においても、東京都健康医療局を介して、身体障がい者補助犬使用者に対し、「ひかりの箱」募金を活用した「身体障がい者補助犬診療券」2万円×150頭分（300万円分）の交付を行い、補助犬の健康管理等診察支援を行った。東京都に予算化を要請していたが、対応がかなわないこともあり、急な変更により利用者に不利益がないよう例年と同じ運用で実施した。

また、募金額の減少、小銭手数料の発生及び東京都への予算化要望の却下などから、令和6年度分の「身体障がい者補助犬診療券」の交付は行わず、事業の継続方法と、募金方法について見直しを行っていた。

例年「ひかりの箱募金」は2月末までに各支部にて取りまとめ送金いただいております。令和2年度募金額は2,032,808円（181件）であったが、上記のような要因により本部に着金した募金額は、令和3年度は397,182円（20件）、令和4年度は97,670円（7件）であった。

令和5年度においては、今後の対応を検討するため「ひかりの箱」募金を設置いただいている動物病院（会員・非会員）に対し、手元にある募金すべてをいったん回収し募金活動は停止いただくよう案内し、回収に関しては、個別振込、支部にて取りまとめいただき振込、直接お持込み又は事務局が集金に伺う方法で回収を行い3,455,007円となっている。

9. 夜間診療活動及びマネジメント事業

夜間に状態が急変するなどしたペットの飼育者が本会ホームページの掲載情報により、電

話相談や受診ができるよう、夜間診療対象動物病院の情報掲載と電話アナウンスによる飼育支援を行った。

10. 小笠原自然環境保護活動事業

小笠原諸島に生息する希少野生鳥獣の保護と自然環境を守るために、本会会員の協力の下、ノネコ保護、獣医師派遣事業等を行っている。本事業の保護対象動物であるアカガシラカラスバトは順調にその個体数を回復し、一時壊滅したカツオドリの営巣地でも巣立ちが確認され、地道な取り組みが功を奏していることが確認されたが、母島などに生息している、日本固有種のオガサワラカワラヒワの生息数が 400 個体以下と絶滅の危険性が高くなっていることが明らかになった。その為、母島でのノネコの捕獲を強化する必要性が指摘されており、本会においても、これまでと同様にノネコの引き受け・譲渡を推進した。

10ーア．保護されたノネコの保護活動事業；

小笠原村、東京都、環境省等と協力し、小笠原諸島固有のアカガシラカラスバトやオガサワラオオコウモリ等希少在来種、繁殖地の保護を目的に、地元で捕獲されたノネコを会員動物病院で引き取り、馴化、健康管理の後、希望する一般家庭へ譲渡する活動を継続して実施した(令和 5 年度 51 頭、累計捕獲頭数 1,195 頭うち都内搬送頭数 1,086 頭)。

東京都からの委託事業「ノネコ搬送に伴う感染症対策等委託」について、1 頭 9,000 円(100 頭)であったが、都に対し適正な費用弁済を求める交渉を続けた結果、令和 4 年度から 13,000 円(100 頭)に増額となり、さらに令和 5 年度から 67,000 円に増額した。

10ーイ．小笠原諸島現地視察活動事業；

小笠原村からの依頼により、動物医療派遣を 2 班に分かれ実施した。第 1 弾は 2023 年 9 月 14 日から 19 日に犬猫(計 5 頭)の不妊手術を主要とし、父島母島飼い主の会代表との意見交換やノネコ捕獲に関して新たな捕獲方法の検討について検討を行い、ノネコ対策の現地視察と協議会メンバーとの顔合わせを行った。

12 月 3 日から 6 日に第 2 弾として適正飼育指導等しつけ教室の実施のための派遣を実施した。直接飼い主から受ける相談会や、市民講座「しっぽのある家族との楽しい暮らしから」「小笠原村より適正飼育(犬)についての説明」を行った。講座に関しては評判がよくオンラインでの視聴希望から、村民がいつでも視聴できる環境が整えられた。

10ーウ．シンポジウム・講演会等による自然環境保護の啓発事業；

小笠原自然遺産の保護・保全に関する知識の普及啓発活動として、東獣ジャーナル、ホームページ等の広報活動を通じて、恒久的な自然環境保護への理解向上に努めた。

11. 傷病野生鳥獣保護活動事業

東京都の委託を受け、都民によって動物病院に持ち込まれた傷病野生鳥獣について救護、治療活動を実施した動物病院に治療費を支援する「傷病野生鳥獣保護活動事業」を実施した。

令和 5 年度実績は 138 件であった。一方、委託対象にはなっていないドバト、カラス等 62 件については、動物の命の大切さから、保護、治療を本会からの助成により実施した。

なお、委託対象外鳥獣においては、令和 3 年度まではカラス、ドバト、ひな、鳥獣、ペット及び外来種とされていたが、令和 4 年度からはニホンジカ、イノシシ、ニホンザル、タヌキ、カラス（ハシボソガラス、ハシブトガラス）、スズメ、ヒヨドリ、ムクドリ、カワウが加えられ、令和 5 年度にはウミネコも追加された。

また、治療後死亡した 70 件については、会員病院での検案の後、一般社団法人東京都獣医師会霊園協会との協定に基づき埋葬した。

さらに、当該傷病野生鳥獣の罹患する疾病のデータを蓄積し、当該データを東京都等に提供することによって、今後の感染症対策に繋がるよう継続して資料収集に努めた。

12. 学会・講習会活動事業

東京都獣医師育成対策委託事業により、啓発セミナー動画を作成し公開した。

より良い動物診療は、獣医師対飼育者間のみでコミュニケーションを図るだけでなく、獣医師同士、獣医師と看護師等スタッフ、一次療施設と二次診療施設など、様々な立場間でのコミュニケーションの構築によって提供が可能になることから、動画セミナーの第 1 部で動物病院でのコミュニケーションテクニックのポイントを解説し、第 2 部では過去にトラブルとなった事例と対策例を対談形式で紹介し、YouTube などで配信した。

講習会用に作成した資料と講習会の動画は、獣医師向けウェブサイトおよび一般向け動画サイト（YouTube など）を使い広く一般に公開し、都内開業獣医師の知識及び資質の向上を図った。

【内容】

Part1 コミュニケーションでより良い医療を

「明日から使える医療コミュニケーション」

講師： 獣医師 伊藤 優真

Part2 コミュニケーションでより良い医療を

法律的視点×医療コミュニケーション的視点から見る

「獣医療トラブルの具体例と対策」

講師： 弁護士 田村 勇人

獣医師 伊藤 優真

委員会において検討した成果は、報告書として取りまとめ、冊子として作成した。この報告書（リーフレット）は、3 月末に都内診療施設 1,964 軒へ配布した。

- (1) 三学会活動；令和 5 年度関東・東京合同地区獣医師大会・三学会が 9 月 3 日（日）にソニックシティ（さいたま市大宮区）にて開催された。小動物獣医学会 B において、日本獣医生命科学大学 矢澤大輔先生が発表された「液体窒素処理自家骨を使用して患肢温存療法を実施した前肢骨格の骨肉腫罹患犬の 3 症例」が地区学会長賞を受賞され、12 月 1 日から神戸で開催された日本獣医師会獣医学術学会年次大会にて発表した。本会からは、矢澤先生の交通費・宿泊費を負担した。

(2) 学術国際交流活動；FASAVA(アジア小動物獣医師会大会) がインドムンバイ (10/27～29) にて、FAVA(アジア獣医師会連合大会) がマレーシアクチン (11/3～5) にて開催され、上野弘道会長と高藤典靖担当理事が参加し、前任者からの引き継ぎを完了した。

(3) 日本獣医師会による講習会；

獣医公衆衛生講習会

農工大・東京都獣医師会共同主催 第1回フロンティアワンヘルスネクサスセミナー
Zoom 形式 (12/12)

「獣医療従事者が知っておくべき SFTS」

1. SFTS の東京での X デーに備える！ 国立感染症研究所 前田健 先生
2. SFTSV の院内感染を経験して やの動物病院 奥山寛子 先生

小動物臨床講習会

狂犬病についての講習会 新宿 (3/10)

1. 狂犬病の発症事例紹介 佐藤克先生
2. 犬の咬傷事故対応並びに狂犬病発症を疑った場合の対応マニュアルの改訂点と
集合注射の際に準備すべきこと 中川清志先生
3. 予防接種によるアナフィラキシーの診断と対応について 農工大大森啓太郎先生

(4) 支部学術講習会；

品川・大田・中央支部 三支部合同学術講習会

「up-to-date 犬のリンパ腫～化学療法という【武器】を使いこなす～」(10/29)

町田支部学術講習会

「僧帽弁閉鎖不全の診断と治療」(2/4)

13. 広報活動事業：

本会活動の透明性を図るために、本会の事業全般に関わる包括的情報を広く一般都民及び獣医師に広報し、都民及び獣医師がこれら情報の内容を十分に享受できるよう、次の広報活動に努めた。

(1) 東獣ホームページの充実：

関心の高い獣医事に関する諸情勢、学術調査の結果並びに研究成果、動物の疾病、治療並びに必要な保健衛生指導等、都民や動物の飼育者に対して必要な情報等を本会ホームページ、ポータルサイト等に掲載するなどして、ウェブサイトの開示、構築を図った。

また、令和6年度のリニューアルに向け検討を行った。

(2) 機関紙（東獣ジャーナル）の発行：

公益目的事業の活動報告、獣医事関連法規、獣医事に関する諸情勢、学術研究の調査結果等の必要な情報の収集と開示に努め、獣医師の専門知識研鑽に寄与するため、東獣ジャーナルの年4回刊行（紙媒体1月、7月とWeb媒体4月、10月）し、掲載情報の充実に努めた。

また、時流に即した特集を企画し、より読みやすい誌面とするように図るとともに、PC等で閲覧できるようにWeb版を作成した。

【特集】

No.607 (2023. 4)

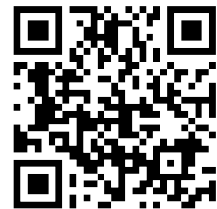
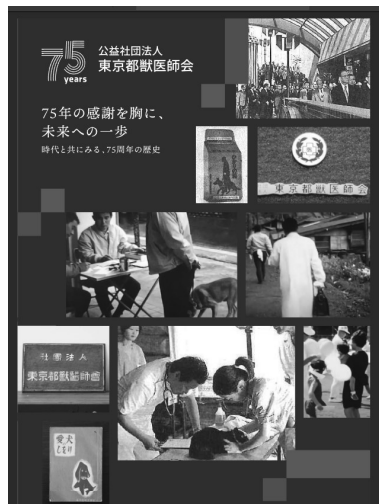
ペットテックは獣医療の新たな開拓者となるかペットの健康管理最前線を深掘る

No.608 (2023. 7) 獣医師なら知っておきたい「2024 年問題」の現実

No.609 (2023. 10) なぜ学校で動物を飼うのか

No.610 (2024. 1) 獣医師なら知っておきたい今日から話せる One Health

(3) 社史の発行：本会 HP において、東京都獣医師会 75 年の歴史について（web 版社史）を公開した。



URL : <https://www.tvma.or.jp/public/2024/03/75.html> QR コードからも参照可能

14. 家畜衛生防疫対策事業

令和 5 年度産業動物委員会を 3 月 15（金）に開催し、ワクチン接種の推進事業、遠隔診療の導入状況、産業動物獣医療体制確保対策、死亡牛 BSE 検査対象の変更についての情報・意見交換を行った。

15. 医療事故防止セミナー開催事業

令和 5 年度獣医師育成対策事業（都委託）において、「獣医療コミュニケーションの適正化検討委員会」を設置し、コミュニケーションテクニックをまとめた解説セミナー」を作成した。詳細は 12. 学会・講習会活動事業の項で報告する。

Ⅱ. 収益事業及びその他の事業

(1) 不動産の貸し付けに関する事項

本会は、本会の組織基盤を充実させ、適切なる本会事業を推進していくため、不動産の貸し付け事業を実施し、経済的基盤の充実に努めた。

(2) 福利厚生事業

「福利厚生事業要綱」により家族調査を実施し、加入獣医師及びその家族を対象として、次のとおり給付事業を行った。

1) 共済給付

①弔慰金 18 件 ②傷病見舞金 3 名 総計 12 回 ③災害見舞金(コロナ見舞金) 8 件
④結婚出産祝い金 4 件 ⑤同窓会参加補助費 2 件 28 名分

※「新型コロナウイルス感染症への感染による見舞金」は、2023 年 5 月を以て終了。

総計 31 件の申請 総額 2,360,000 円(令和 2 年度～令和 5 年度)

2) 旅行保険の加入 なし

3) 無受給退会者への記念品贈呈 9 件

(3) 入会促進(組織率向上対策)

獣医師が担う獣医療提供の質が全体的に高位に確保できるよう、関係大学獣医学科に就学する学生、新規免許を取得した獣医師、まだ会員として所属しない開業獣医師(非会員)等に対して積極的に入会促進を図り、組織率の向上に努めた。本会の活動を分かり易く紹介するリーフレット「動物と共に歩んで…東京都獣医師会のご案内」を配布し、入会を促進した。

また 2024 年 3 月 7 日の日本獣医生命科学大学令和 5 年度学位記授与式、2024 年 3 月 26 日の東京農工大学共同獣医学科令和 5 年度謝恩会に上野会長が出席し、獣医学科優等卒業生を表彰し、併せて獣医師会の活動等に関する情報提供を行い、入会促進を行った。

新規入会した会員に対しては総会において紹介し、所属会員の章(会員プレート)を交付するとともに、関係法令の遵守、獣医療倫理、獣医療過誤防止とインフォームドコンセントの徹底、適切なカルテの記述、適切な広告のあり方等を周知し、飼い主から信頼される質の高い適切な獣医療の体制の確保に努めた。

組織力強化対策の一環としての新たな取り組みである疼痛管理と麻薬の取り扱い知識向上と併せた入手経路の安定化に向け、会員向けのセミナー開催や業界団体との交渉等を行った。

また、賛助会員 97 社の協力を得て、本会会員特典として、勤務スタッフも含めた健康診断割引、病院の福利厚生システムの一助となる会員制度の紹介と会費割引の提供、会員の車輛購入に際しての割引サービスの提供、会員家族のケアも見据えた高齢者福祉施設の紹介と入居費用に係る割引の適用、病院ホームページ制作の割引料金の提供など、会員個人の生活や病院運営の一助となる様々な特典提供の他、支部旅行補償保険制度の紹介など、会員特典の充実に積極的に取り組んできた。賛助会員等の協力を得て、以下の会員向けセミナーを実施した。

・SOMP0 ひまわり生命 会員向けマネーセミナー ウェブ配信 (10/5)

「NISA 大改正！！これからの資産形成とリスク対策」

(4) その他、予防接種証明書等販売事業

適切な獣医療の提供を図るため、犬及び猫の各種ワクチンを網羅した予防接種証明書を印刷作成し頒布した。

(5) 事務受託事業

会員の福利厚生に資することを目的に、保険加入等の斡旋業務等を行った。